

平成24年度 教育振興運動
市町村担当者等研修会



岩手県教育委員会

生涯学習文化課 佐藤 敦 士

「資料1」より **教育振興運動とは何ですか？** ①

昭和40年度 岩手県独自の教育運動としてスタート

＜背景＞

- ①学力調査；全国最下位（S31～S41）
②高校進学率 40%（全国65%） } 学力向上が急務



(1) 5者が、それぞれの役割と責任を果たしながら、相互に連携して進める運動です。

【5者の目標・責任】

- ①子ども…「学習意欲を高める」 ②親…「家庭教育を充実させる」
③教師…「学校教育を充実させる」 ④地域…「地域の教育環境を整える」
⑤行政…「教育条件を整備充実させる」

(2) 地域の教育課題を、地域単位で話し合い、計画を立て、自主的に解決しようとする運動です。

「資料1」より **教育振興運動とは何ですか？** ②

(1) **“5者の目標と責任”**とは？

⇒ 5者が、同じことをするのではありません。

⇒ 5者全員が、同じ行事に参加するものではありません。

…違う場所で、違う活動をしていても、同じ目標を目指して取り組んでいる人は活動に参加している。

(2) **“運動は何のため”**におこなうのか？

⇒ 今、目の前の課題は何ですか？

⇒ 運動を進める上での課題は何ですか？

…それを解決するための運動です。今、必要なことに取り組む運動は、時・地域を問わず普遍です。

「資料2」より

10か年プロジェクトとは何ですか？ ①

みんなで教振！10か年プロジェクト

17～19年

再構築の
3年

- ・組織の見直し
- ・課題の掘りこし
- ・モデルプログラムの開発と実践

20～22年

実践の
3年

- ・見直した組織、掘り起こした課題に取り組む
- ・サイクルと評価

23～24年

定着と検証
の2年

- ・理念の定着
- ・取組の検証

25～26年

飛躍の
2年

- ・10年間の取組を集約し、次のステージへ

その組織でよい
のですか？
本当に、それが
課題ですか？

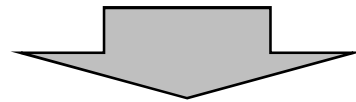
5者の役割を明示した雛形(モデルプログラム)

地域の全員が関わる活動(全県共通課題)

「資料2」より **10か年プロジェクトとは何ですか？** ②

平成16年；「10か年プロジェクト」が始まった背景

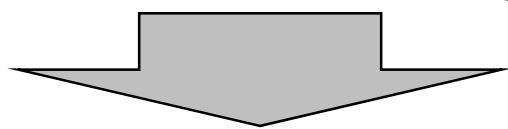
- ア 運動のねらいについての住民の理解不足
- イ 組織の硬直化
- ウ 課題の掘り起さない例年通りの活動
- エ 目標を持たない活動による運動のマンネリ化
- オ P D C A サイクルになっていない展開
- カ 活動が一部の人限定
- キ 学社連携、運動に対する教員の意識が低い
- ク 地域づくり・まちづくりの視点の欠如



運動の“再点検”と“改善”が必要

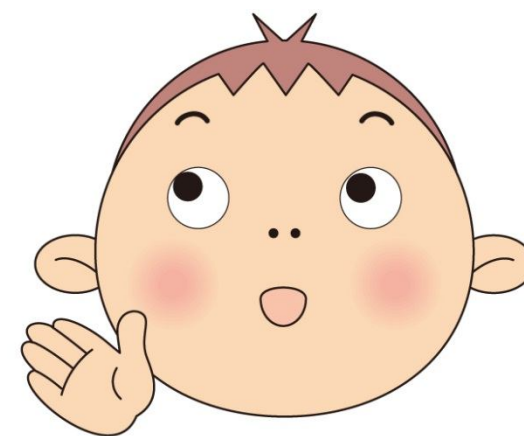
皆さんの市町村は、このような状況ではないでしょうか？
市町村の運動状況を“点検”しましょう！
また、そのような状況から“改善”されてきているのでしょうか？

それが、「10か年プロジェクト」が目指していること、そして「定着と検証の2年」で、地域に定着させること、今年度検証すること。



「実践の3年」で提唱してきたこと

- 「**モデルプログラム**」の提唱（平成20年～）
5者の役割とすべきことを明確にした取組
- 「**全県共通課題**」の提唱（平成21年～）
 - ・すべての子ども、親、先生、多くの地域の方と行政が関わる取組
 - ・年間サイクルの確立と評価の数値化（見える化）



「資料4」より

市町村における課題・悩み(46市町村・地区)

～ “どのように”取り組むべきか？ ～

%

100.0

80.0

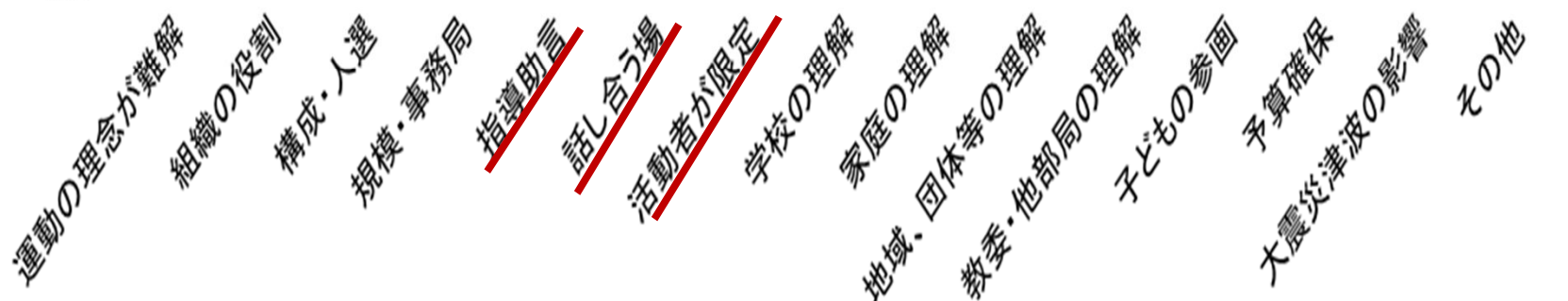
60.0

40.0

20.0

0.0

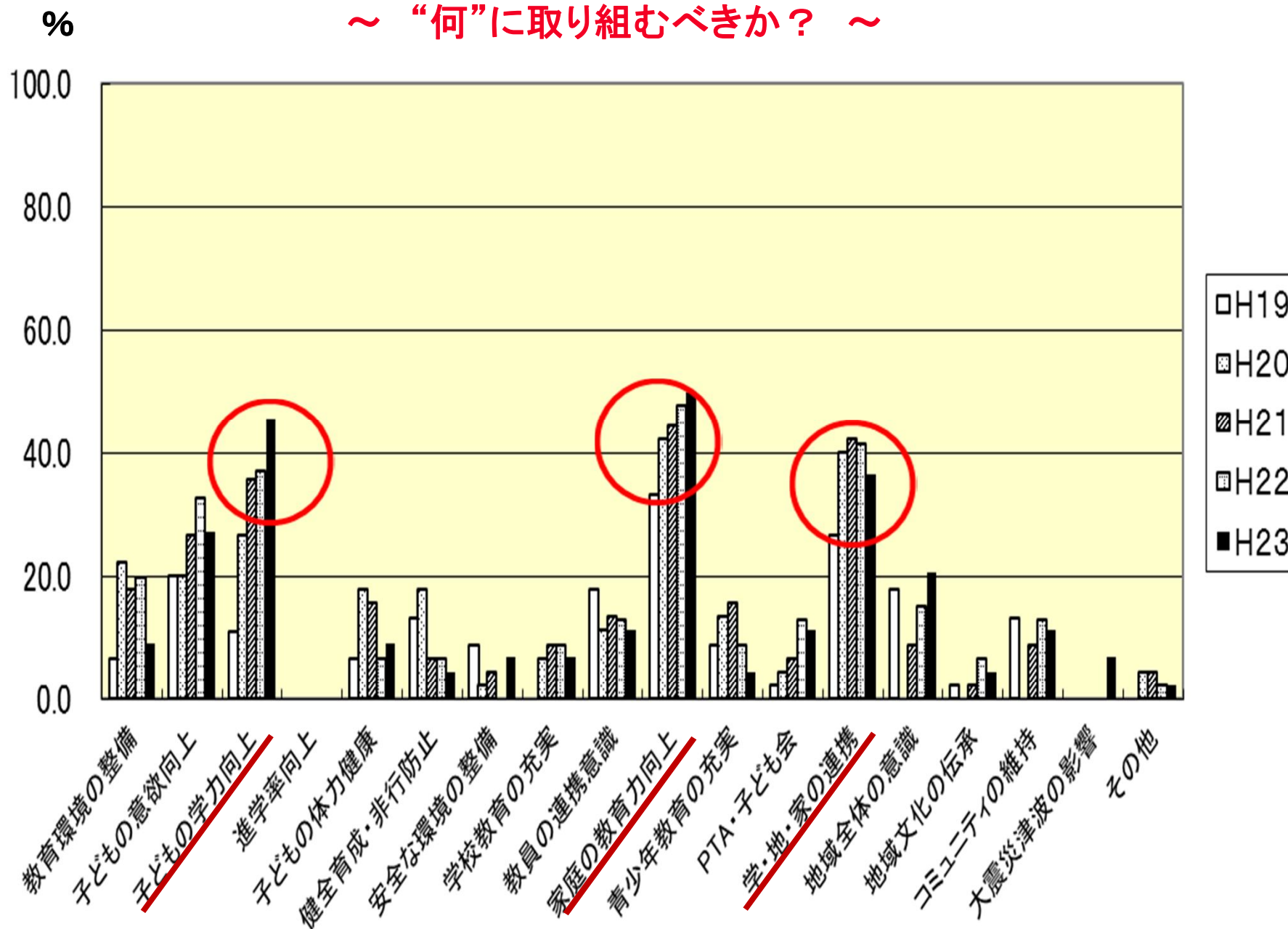
□H19
▨H20
▩H21
▧H22
■H23



「資料4」より

市町村の教育課題(46市町村・地区)

～ “何”に取り組むべきか？ ～



「資料7」より これらを解決するために・・・

★ 何に取り組む？

「**子どもの学力向上**」と「**家庭の教育力の向上**」を、
「**学校・家庭・地域の連携**」によって取り組む

★ どのように取り組む？

○ 5者のすべきことを、それぞれが「**話し合い**」、
「**すべての子ども・親・先生、多くの地域住民**」が
すべきことに取り組む

○ 「**行政(市町村教委)**」が、学校・家庭・地域の橋渡しとなって、
PDCAサイクルの流れに沿った情報提供をおこない、意識の
啓発にあたる

○ また、話し合いや推進では、市町村担当者が苦勞しないように、
外部(県社教主事等)からの「**指導助言**」を活用する

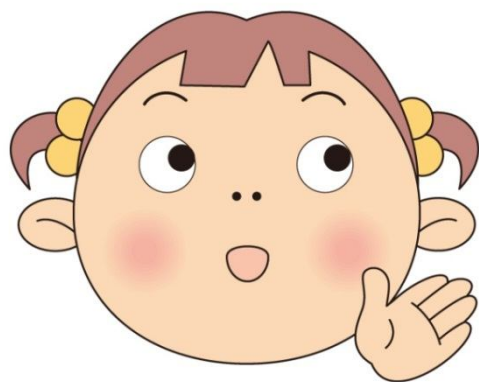
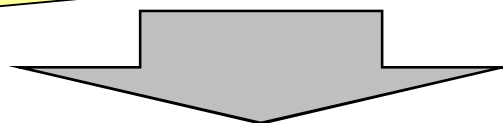
モデルプログラム
と
全県共通課題

「資料7」より

運動推進上の課題(どのように取り組んだらよいのか悩んでいる)や地域の教育課題(今、取り組む必要がある)の上位が、毎年同じです。…どうなのでしょう？

市町村では、これらの課題に“取り組んでいない”のか、“取り組んでいるのに、改善されない”のか。

“どうしたら、いい？”今日は、それを考える機会です。



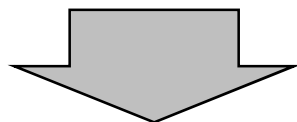
「何に取り組むか」は、実態に応じて地域で決めるもの。

「どのように取り組むか」は、運動の理念を踏まえて取り組む共通のもの。

⇒ 県集約大会で確認 (P27をご覧ください)

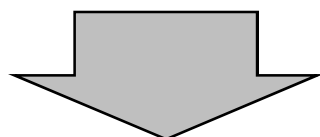
「資料7」より

2011年3月11日 東日本大震災津波の発災



今、目の前の課題を、**どうにかしなければ！**

【例】 避難所で「子どもたちの学習室」をつくる動き

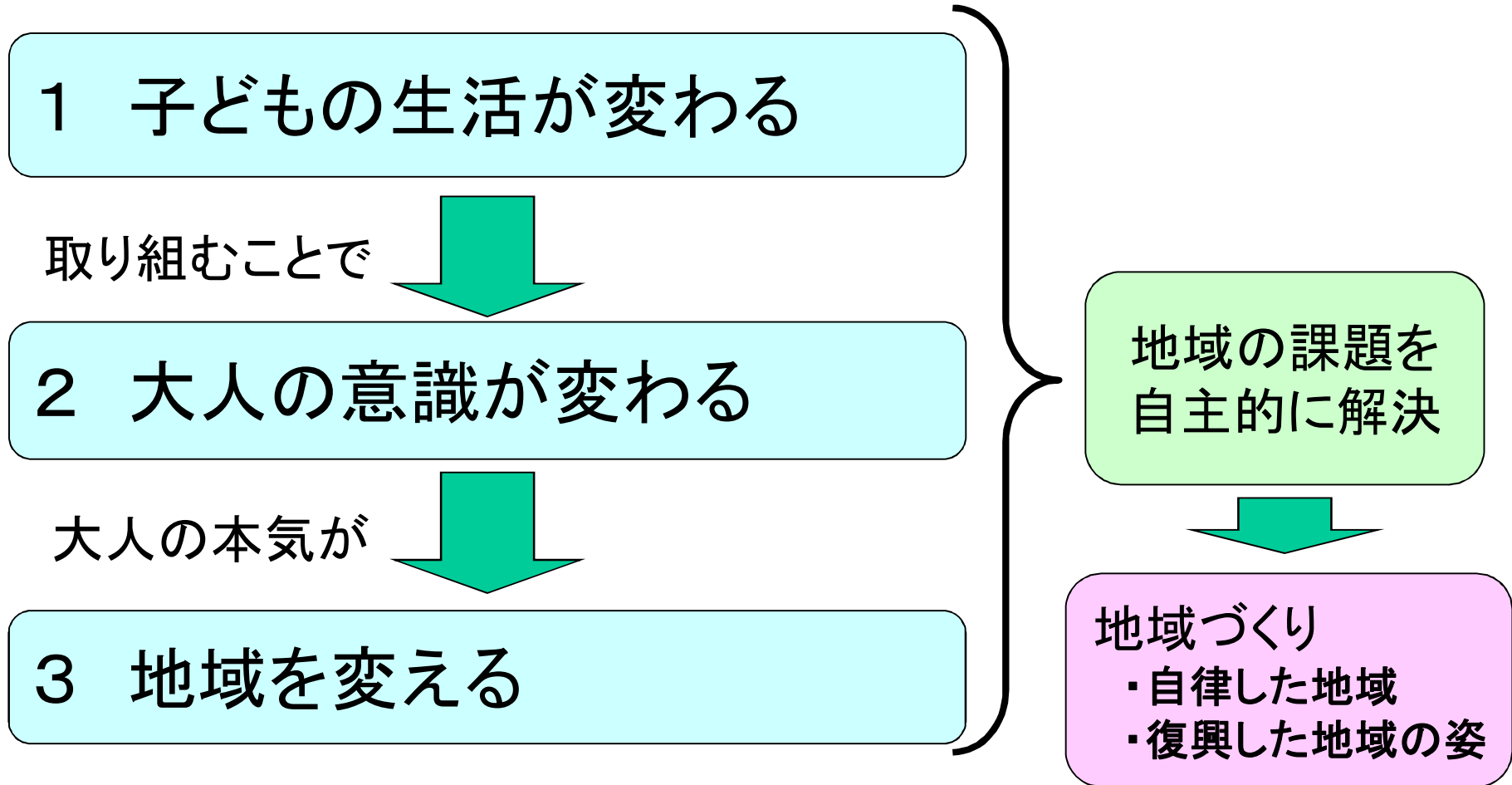


どうにかしなければ・・・

たとえば・・・

- ・仮設校舎での共同生活・教育環境の整備
- ・仮設住宅での避難生活
 - ①新たな地域として、コミュニティをつくる取組
 - ②元の地域のコミュニティを取り戻す取組
- ・命を守り、県民として寄り添い、教訓を伝え残し、地域をつくる人材を育てる「**いわての復興教育**」(新たな観点)

【まとめ】 教育振興運動に取り組むと・・・

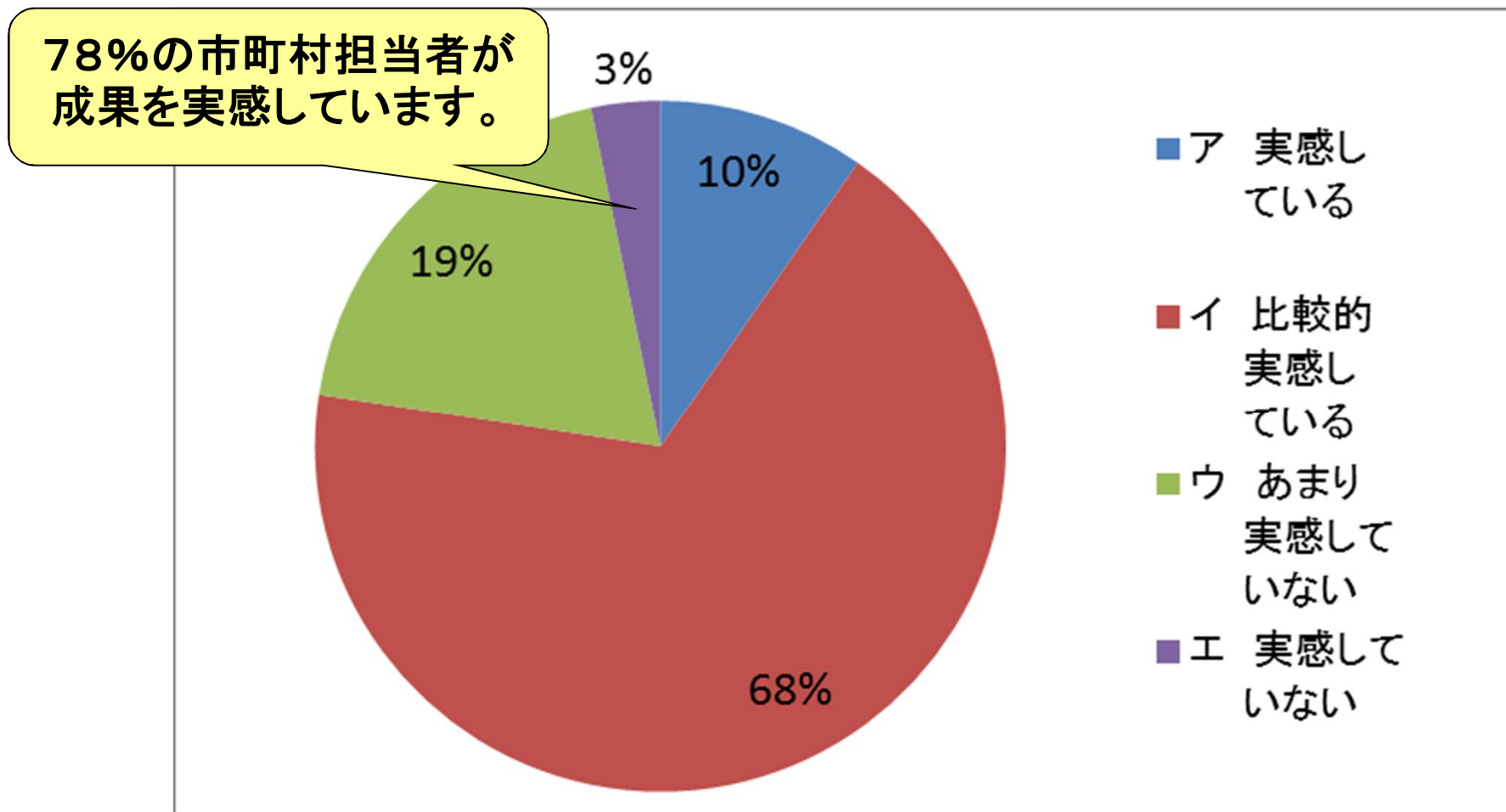


震災からの復興に向けた、地域再生の運動として・・・。

「資料5」より

協議事前資料の回答より

(問) 平成17～24年の「運動の取組によって、子ども・保護者・地域は変わった」と実感していますか？



「教育振興運動」・・・どうにかしなければ！

- 「一言で国を滅ぼす言葉は“どうにかならう”の一言なり、江戸幕府が滅亡したるは、この一言なり」
(江戸時代末期の幕臣 小栗上野介の言葉)
- 「どうにかできないのは、能力の限界ではなく執念の欠如である」
(第4代経団連会長 土光敏夫の言葉)

「できない！」と、言うのは簡単です。

・・・「どうしたらできる？」と考えたいものです。

「子どもが悪い」・「親が悪い」・「学校が悪い」・「地域が悪い」・
「行政が悪い」・・・誰かを悪者にして、文句を言うのは簡単です。

でも・・・。それでは、何の解決にもなりません。

手を取り合って **「Hand In Hand」!**

Hand In Hand 君はひとりじゃない
Side By Side 一緒に行こうヨ



みんなで、頑張りましょう！